

# ラター『レクイエム』の英語歌詞発音のための参考資料

こりす作成（一般公開用 2022年11月3日版）

□ 作曲者が主宰する合唱団の演奏音源も参考にして、一般的な辞書を見てもわかりにくい事項を中心に記しました。いわゆるイギリス式ですが、やや保守的な発音を書いています。

- 記号**
- ・  $\wedge$  は前後の単語をつないで言う印 (look at →「ル.カト」等) ,  $\cup$  は **r** の音を入れてつなぐ印。
  - ・ **(e)** は黙字。
  - ・ **下線** は曲の中でアクセントがあるなどのため重要な強勢母音。  
**太い下線** も同じだが、二重母音 (前半を長くはつきり言い、後半はあいまいな感じにして軽く添える)。
  - ・  $\blacksquare$  をつけたのは無強勢の弱母音 (英語らしく発音するための重要な要素のひとつがこれ)。  
2種類あるが、歌詞の下に  $\text{ə}$  と書いたのは、くぐもった感じの暗く弱いア (ウに少し近づく)。  
ただし、はつきり歌うときは綴り字にあわせてオやエに寄る、特に of, for, from や -ness で。  
 $\text{ɪ}$  はイとエの間の弱い音 (参考:  $\text{ə}$  として発音されることもある)。  
ただし、はつきり歌うときは綴り字にあわせてエに寄る、特に語尾の -ed で。
  - ・ 曲中の重要性が低いと音色が曖昧化する母音があるが (and 等) , ここでは注記していない。

## 2. Out of the deep

Out  $\wedge$  of the deep hav(e)  $\wedge$  I call(e)d  $\wedge$  unto thee, O Lord: Lord, hear my voic(e).  
 $\text{ə}$  「アウト.トヴ」  $\text{ə}$  「ハ.ヴァイ.コル.ダントゥ」 のようにつなぐ 「ヒーア」  
深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。 主よ、この声を聞き取ってください。

O let thin(e)  $\wedge$  ears\* consider well: the voic(e)  $\wedge$  of my complaint.  
 $\text{ðain}$  \*「イーアズ」 (→ $\text{ð}$ アイ.ニールアズ)  $\text{ə}$   $\text{ə}$   $\text{ə}$  「ヴォイ.ソヴ」  $\text{ə}$   $\text{ə}$   
嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。

If thou, Lord, wilt be extrem(e) to mark what  $\wedge$  is don(e)  $\wedge$  amiss:  
 $\text{ðau}$   $\text{ɪ}$   $\text{ə}$  「ウオ.ティズ~ウオ.テズ」 の間の感じ 「ダ.ナ」  $\text{ə}$   
主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら

O Lord, who may abid(e)  $\wedge$  it?  
 $\text{ə}$  「ア.バイ.デイド~ア.バイ.デド」 の間のような感じ  
主よ、誰が耐ええましょう。

For ther(e)  $\cup$  is mercy with thee: ther(e)for(e) shalt thou be fear'd\*.  
 $\text{r}$  入れてつなぐ 「 $\text{ð}$ エア.リズ~ $\text{ð}$ エア.レズ」 の中間  $\text{ɪ}$  \* 「フィーアド」  
しかし、赦しはあなたのもとにあり 人はあなたを恐れ敬うのです。



I am the resurrection and the lif(e), saith the Lord:

ə ə ə 「レ.ザ.レク.シャン」に近い ə 「セ θ」 (参考: セイ θ とも) ə  
イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。

he that believeth in me, though he wer(e) dead, yet shall he liv(e):

I I θ I  
わたしを信じる者は、死んでも生きる。

and whosoever liveth and believeth in me shall never die.

ə I θ I I θ I  
生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。」

## 6. The Lord is my shepherd

The Lord is my shepherd: ther(e)for(e) can I lack nothing.

ə ə I ng は鼻濁音  
主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

He shall feed me in a green pastur(e): and lead me forth besid(e) the waters of comfort.

「イ.ナ」ə ə I ə ə ズヴ ə ə カン.ファ〜フォト  
主はわたしを青草の原に休ませ 憩いの水のほとりに伴い

He shall convert my soul:

ə  
魂を生き返らせてくださる。

and bring me forth in the paths of righteousness, for his Nam(e)'s sak(e).

ng 鼻濁音 θ θs ə ə ə 「ライ.チャス.ネス」 ə  
主は御名にふさわしく わたしを正しい道に導かれる。(参考: paths の最後 s は濁ることも「ツ」のこともある)

Yea, thou I walk through the valley of the shadow of death I will fear no evil:

「イエーイ」 ə 「ヴァ.リ」ə ə ə ə I 「イ-ヴィル〜イ-ヴェル」の中間  
死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。

for thou art with me; thy rod and thy staff comfort me.

əai ə 「カン.ファ(〜フォト)」  
あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖 それがわたしを力づける。

Thou shalt prepar(e) a table for me against them that trouble\* me:

ɪ rɪ 「プリ.ペア.ラ.テイ.ブール」に近い感じで ə ə \*「トラブルー」ではなく「トラ.ブール」に近く  
わたしを苦しめる者を前にしても あなたはわたしに食卓を整えてくださる。

thou hast anointed my head with oil, and my cup shall be full\*.

ə ɪ ɪ \*伸ばすとき「フルー」ではなく「フル」に近い感じで  
わたしの頭に香油を注ぎ わたしの杯を溢れさせてくださる。

But thy loving-kindness and mercy shall follow me all the days of my lif(e):

ɪ ə 「ラヴィンカインドネス」 əu ə ə 「デイ.ゾヴ」  
命のある限り 恵みと慈しみはいつもわたしを追う。

and I will dwell in the hous(e) of the Lord for ever.

ɪ ə 「ハウ.ソヴ」 ə ə ə rɪ ə 「フォ.レ.ヴァ」  
主の家にわたしは帰り 生涯, そこにとどまるであろう。

## 7. Lux aeterna

(I heard a voic(e) from heaven saying unto me:

ə ə ɪ ŋg は鼻濁音  
わたしは天からこう告げる声を聞いた。

Blessed are the dead, who die in the Lord, for)

ɪ ə ɪ ə  
『主に結ばれて死ぬ人は幸いである』と。

Blessed.

ɪ 「ブレ.セド~ブレ.スイド」の間の感じ, 最後の d は濁る  
(彼らは) 幸いである

They rest from their labours: even so saith the Spirit.

ə ə 最後の s は濁る ə s は濁らない ə ɪ  
彼らは労苦を解かれて, 安らぎを得る。

聖書からの歌詞の訳は「共同訳」  
©共同訳聖書実行委員会  
©日本聖書協会